

子ども理解支援ツール「ほっと」を活用しよう！！



生徒指導の基本は、教職員による児童生徒理解です。しかし、経験のある教職員であっても、児童生徒一人一人の家庭環境、生育歴、能力・適正、興味・関心等を把握することは非常に難しいことです。また、スマートフォンやインターネットの発達によって、思春期の多感な時期にいる中学生や高校生の複雑な心理や人間関係を理解するのは困難を極めます。そのため、生徒指導の諸課題の未然防止では、教職員の児童生徒理解の深さが鍵となります。

北海道教育委員会では、児童生徒理解の充実を図るため、平成24年6月、児童生徒のコミュニケーションスキルを測定する「子ども理解支援ツール『ほっと』」を、北海道医療大学と共同して開発（平成31年3月改訂）し、学校での活用を促進しています。

ダウンロードはこちら <https://www.dokyoji.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/hot.html>

※ネットワーク環境等の影響により、ダウンロードできない場合があります。その際はセキュリティポリシー等の確認や別のネットワーク環境からダウンロードを試みるなどの対応をお願いします。



1 子ども理解支援ツール「ほっと」とは

子ども理解支援ツール「ほっと」（以下「ほっと」という。）は、児童生徒のコミュニケーションスキルの状況を発達の段階に応じて測定することができるツール（質問紙調査法）です。「ほっと」とはどのような特徴をもっているのでしょうか。

① 「ほっと」の特徴

これまで、学校や学級への適応感を測定する尺度など、多種多様な質問紙調査法が開発されていますが、「ほっと」は次のような特徴をもっています。

- ① コミュニケーションスキルの網羅的な測定が可能
- ② 発達の段階に応じたコミュニケーションスキルの測定が可能
（小学校低学年、中学年、高学年、中学校、高等学校の5段階）
- ③ 北海道の教職員の経験を考慮した質問項目を設定



② 「ほっと」で測定できるスキル

「ほっと」は、児童生徒や学級等のコミュニケーションスキルを測定することができるツールです。先行研究からコミュニケーションスキルは13要素に分類することができますが、「ほっと」はその13要素全てを測定することができます。

13要素					
1	礼儀（あいさつをする）	6	緊張（緊張を抑える）	11	率先（リーダー役を担う）
2	表明（意見を伝える）	7	称賛（相手を称える）	12	学業（学ぶ姿勢をつくる）
3	参加（仲間に加わる）	8	遵守（ルールを守る）	13	相談（悩みを相談する）
4	配慮（相手を思いやる）	9	忠告（注意を呼びかける）		
5	拒否（嫌なことを断る）	10	自律（自らを律する）		

2 「ほっと」実施の流れ

step1 児童生徒への「振り返りシート」の配付及び回答の実施



次の文をよく読んで、現在のあなたにあてはまる番号を○で囲んでください。
例にならって、「あてはまる」ときは4、「ややあてはまる」ときは3、
「あまりあてはまらない」ときは2、「あてはまらない」ときは1を○で囲んでください。

年 組 番 氏名： _____

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
例 早寝早起きをいつも心がけている	4	3	2	1
1 だれにでも自分からあいさつをすることができる	4	3	2	1
2 感謝の気持ちを伝えることができる	4	3	2	1
3 少数意見であっても、自分の考えをしっかりと言うことができる	4	3	2	1
4 場面や状況 <small>じょうきょう</small> を考えて、相手に伝わるように発言できる	4	3	2	1
5 積極的に集団活動に参加できる	4	3	2	1
6 共通の目標に向かって、みんなと協力することができる	4	3	2	1

ICTを活用して実施している学校もあります



step2 児童生徒が回答した「振り返りシート」の結果の入力

 データ集計
①入力されたデータを集計します。

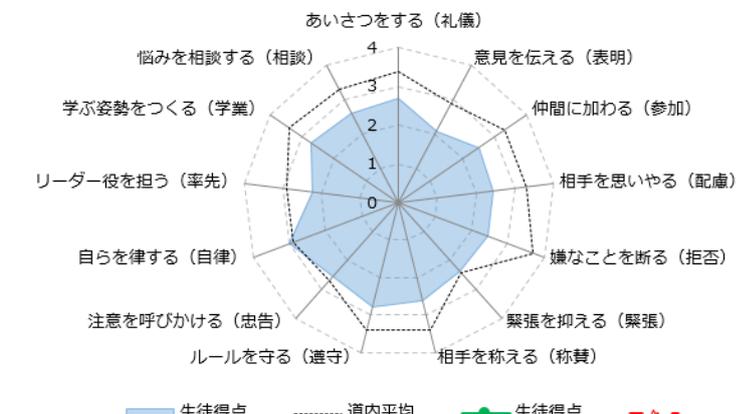
 データ保存
①入力されたデータを保存します。

クラス	1	年	2	組	男子	人数	6	低群	10	中群	13	高群	13
実施年月	4	年	7	月	女子	人数	7	低群	1	中群	13	高群	2
回答者	生徒	逆転	済	人数	13	高群	2						

生徒情報				質問項目																						
ON/OFF	ID	氏名	性別	得点群	カスタム	q1	q2	q3	q4	q5	q6	q7	q8	q9	q10	q11	q12	q13	q14	q15	q16	q17	q18	q19	q20	q21
1	1	安藤	1	中群		4	3	2	4	3	2	4	3	1	2	4	3	2	3	3	2	4	3	3	4	3
1	2	井上	0	低群		4	3	2	1	4	3	2	1	2	3	4	3	2	4	4	3	2	1	4	3	2
1	3	上島	1	低群		1	2	3	1	2	3	1	2	4	3	1	2	3	2	2	3	1	2	2	1	2
1	4	江藤	0	高群		4	3	4	2	4	3	4	2	2	1	4	3	4	4	4	3	4	2	4	3	4
1	5	岡島	1	低群		2	4	1	2	4	1	2	4	3	1	2	4	1	4	4	1	2	4	4	2	4
1	6	唐沢	0	低群		3	2	1	3	2	1	3	2	2	3	3	2	1	2	2	1	3	2	2	3	2
1	7	木村	1	低群		1	2	3	1	2	3	1	2	4	3	1	2	3	2	2	1	1	2	2	1	2
1	8	工藤	0	高群		4	3	4	2	4	3	4	2	2	1	4	3	4	4	4	3	4	2	4	3	4
1	9	佐々木	1	低群		2	4	1	2	4	1	2	4	3	1	2	4	1	4	4	3	2	4	4	2	4
1	10	清水	0	低群		3	2	1	3	2	1	3	2	2	3	3	2	1	2	2	1	3	2	2	3	2
1	11	須藤	1	低群		2	4	1	2	4	1	2	4	3	1	2	4	1	4	4	1	2	4	4	2	4
1	12	藤川	0	低群		3	2	1	3	2	1	3	2	2	3	3	2	1	2	2	1	3	2	2	3	2
1	13	高橋	1	低群		1	2	3	1	2	3	1	2	4	3	1	2	3	2	2	3	1	2	2	1	2
学級平均						2.6	2.8	2.1	2.1	3.0	2.0	2.5	2.5	2.6	2.2	2.6	2.8	2.1	3.0	3.0	2.0	2.5	2.5	3.0	2.4	2.8

step3 集計結果の表示

各項目別スキルの状況



Legend: ■ 生徒得点, 道内平均, ● 生徒得点, -▲-

項目	生徒得点
礼儀	2.7
表明	2.1
参加	2.5
配慮	2.5
拒否	2.5
緊張	2.4
称賛	2.6
遵守	2.8
忠告	2.5
自律	3.0
率先	2.2
学業	2.7
相談	2.6

step4 集計結果の分析及び今後の生徒指導の改善充実に向けた具体的な方策の検討

具体的な取組は次ページ以降で紹介！！

活用事例 1

目指す子どもの姿を踏まえた共通実践項目の設定及び実践

「ほっと」活用のポイント

- ☑ 児童生徒が互いの考えや意見を尊重した態度の育成
- ☑ 中学校区において、共通実践項目を設定したことによる、取組の方向性の統一

取組の実際

1 「ほっと」による傾向と分析

小学校第4学年の児童から中学校第3学年の生徒を対象に、6月に「ほっと」を実施した。

【傾向と分析】

- ・「仲間に加わる」の得点が高い
→学年が上がると、集団意識の高まりが見られる学年があるなど、**学級づくりに主体的に関わる意識**が高まっている。
- ・「意見を伝える」の得点が低い
→令和3年度と比較すると、改善が見られる学年もあるが、クラス替え等に伴い、**新たな人間関係を形成することを苦手**とする学年がある。

			A小学校			B小学校			C中学校			平均
			4年	5年	6年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
あいさつをする	礼儀	R3	3.6	3.6	3.4	3.8	3.5	3.3	3.4	3.3	3.5	3.5
		R4	3.8	3.5	3.8	3.6	3.5	3.5	3.4	3.5	3.6	3.6
意見を伝える	表明	R3	2.9	3.1	3.0	2.7	2.9	2.8	2.8	2.9	2.9	2.9
		R4	3.1	2.9	3.3	2.7	2.8	2.9	2.9	2.8	3.1	2.9
仲間に加わる	参加	R3	3.4	3.4	3.2	3.5	3.2	2.9	3.1	3.3	3.3	3.3
		R4	3.6	3.1	3.9	3.3	3.1	3.4	3.3	3.3	3.4	3.4

2 分析結果に基づいた取組

「意見を伝える」の得点が他の項目と比較し低い傾向にあるとともに、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査から、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」及び「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の質問に肯定的に回答する児童生徒の割合が低いことから、自分のよさを伸ばし、相手を尊重する児童生徒の育成を目指すことができるよう、「**中学校区が目指す15才の姿**」を踏まえた**共通実践項目を設定**し、各学校の特色を踏まえて実践する取組を実施した。

3 取組の成果

- 「中学校区が目指す15才の姿」を踏まえた共通実践項目を設定したことにより、各学校の取組が焦点化されるとともに、**既存の学校行事や教育課程と関連した指導**を行い、目指す姿を踏まえた児童生徒の望ましい態度の醸成を図ることができた。
- 共通実践項目を踏まえて各学校が実践した取組内容を共有することにより、児童生徒の長所や共通の課題を具体的に取り上げ、**中学校区の教職員が同じ視点で指導・育成**に当たることができた。今後、12月に実施する「ほっと」において、成果及び課題を明らかにする。

自分の意見を伝えよう！

失敗を恐れずに挑戦しよう！

相手の意見を聞いて考えよう！

相手を
受け入れ

ともに
支え合い

ともに
高め合える

優しい心をもった
大人になってほしい！

【児童生徒に対する中学校区の教職員からのメッセージ】